

今ある問題に対する中央政府の立場を述べて関係しておきたいが、まず中央政府は、市と市長がやつてゐるわけではなく、市議会がやつてゐるわけだ。たゞ、本件に上書きをするための予算がいるのは、市町村といひことになります。これが終戦後から、大體は内閣として預け取らざる事無く、市がすべての市町の差遣を受けるのである。市議会が予算を十分持つてゐないので、思つてもう少しもあせらず、それで原因になつて、これまで事業の補助金を多く手取る要求をしてきたが、事業が実績を残さないことが起つて、かねてから困るだけだ。だから東京の方に交じて、納税のへんすうも補助金を出すであります。市を運営しなければならないからやんて、まあ、市長も市議会が実施する事業が、表現できぬ

が、金額のばく差、眞の平均値の上に立つて物事を考へることが多いわけです。私は彼らは私たちの立場でいろいろ實験をして、つて詮説するのですが、結果がわからぬなどとうふことがあります。何が、ナベキ一律的貿易立つてどううと

口 あいまい話して田だ、高校進学率の問題ですが、全国的な進学率六十割としまして、芦屋の進学率は九十八割です。障害を持たない人はほどんどどじとかの高校へ行きます。そうしますと、文部省から

解放運動と住民運動

行政への提言 すべての市民の幸せに 解放運動の側から

すべての市民

— 現場(実態)ぬきの平均値主義 —

見立 先ほどのお話を中止してお話をうながすが、三種類あるのがあります。これが何をいいかわからぬのか。
市と町村といはば、直接住民と接觸しておられるのです。また中央政府、市・町・村の機關を持つておられて、存在するのです。それで市・町・村の上の中央政府の機關があるのです。住民からすれば、市町へ県へ入るまで、一つ一つくわんばかりあるのです。

今まで話しておいたいのは、県と中央政府、二つへ関係を持つておられます。本当に住民がなぜかどこの機関をもとがやっているか、問があるのです。

山口 市から縣のが当然で、少前に、教育の問題で、やめて話しておきましたが、もう一度、イライラしました。これはどうだよ。おもむろくねえぢやないか。委員会といひたゞ、専門の委員会から申すが、県の教育委員会の実態がわからんといふのです。

見立 もう少し詳しくお聞きします。それで、國や県など、それぞれの態度を知らないで、わからが悪いからねえのです。

「なんだ、部落だけが……」となつてくるわ
一部落の中に何時、何十億という財産を
持つている人がいるのではなく、何もそん
な人にに対してまじめども対等の恩恵をうけ
なければならない」とすべての人は言うわけだ
す。けれども、生活を中心へ考えるといふと、自
分たちは最高の幸せになつていなかつていいと
言ふかといひれば、昔屋敷が予算をかけて
部落を賣つたれ」といひます。ところが
部落が解放運動の中で見違えるように變
わつてくると、「当初、予算をかけし良く
してやれ」と書いたことが影響を留めて
今度は「何で部落だけに予算をしつけましま
ければならないのか」というように變わ
ります。なぜ、このように變わるのか?
いえ、部落外の人ひとが、最高に幸せで
あれば、もうひと部落を賣つしてやれといふ
ことになるのですが、政治の貧困のために
自分たちも苦しい生活を余儀なくされ、
ると、自分たちが取り残されるという錯覚
に陥りついて、ホチボチやればいいではな
いかということになります。さういふことは
一部落の中には何時、何十億という財産を

克服をとおして

すから、部族の人のことが問題運動をする中で、自力でないがままになつて行くのだと、少しこそ思つてしまふ。このような方向で住民運動が高まつた中で、どうやら市民が幸せな生活が得られない現実では、我々は完全に解放されねば現実があるのである。したがつて、住民運動が問題となるのは、部族解消問題が完全なる問題として、解放のために、部族の人々が連帯して、そして、我々が差別化を解放するだけである。

「たゞが變かし事」
山口 遊葉別どうのは無いのです。追
善別は完全にしてます。なぜ
善別の現象といふ表現をしてます。なぜ
部落の筆を使つたからです。善
別の爪跡を変えていかなければならぬ
からです。手筋でいかが付ねばならない
せん。それが、いかぐつう善方は
差別を無する方回でほなし、むろ善
別の爪跡を残していくおまき。

にあつたのです。
ほんとうだといふが、部落解放同盟員會へ進
みゆけます。自分が行動するながで、
なが教育委員會に通つていくわね。
か、それは、部落だけが幸せになら
じついいわ。誰もがなつて、部落外の
とさせやうなものが、世の中になら
べ、部落は幸せになれないという現
象わけです。
だいたい、部落外の人も自分の努力力
とせよどりの幸せによる方向で暮してゐる

う案外、県教育委員会が教科書を出しただといふらしく、いか考のではないかと思うのです。

るかといえば、決してそうではありません。一層自治といつても言い過ぎではないと思います。もつともと、県、そして中央政府は、市町村が完全に住民を幸せにできるような政策が可能なまゝな税金の分配をするべきだと思うのです。市町村が、住民を幸せにできるような財政状態にすれば、その施策ができるのです。それができない状態に陥っているところの問題があるのであります。だから、私たちちは、行政が、いや芦屋市が、國に対しより強力な折衝をする中で、市民を幸せにするための財源確保が必要であると思います。同時に、芦屋市民自身が、手をつけないで実践行動の中で、自分が幸せにならなくてはいけません。畢竟、今お話を聞いていて、差別的、不公平なことをやめなければなりません。これが続くなれば、考え方ます。だから、芦屋市にやられると、自分が自ら努力して、芦屋市にやられようと、した本音の住民運動が起きていたかというと、起きないです。最近、市長に対する要望とか、教育長に対する要望とか、教育長に対する要望と、どう方向で動き出します。けれども、生活の実態といふものは、市長とか、教育長よりも自分自身が一番良く知っているわけです。だから、実態として、うなづいた上で、足りないところを補うべきであります。それで、このままでは、なかなかうまくいかないかと考えます。

なしえ、幸いです。これが、明らかにならなかったのです。当然、部落解放運動が、何らかの形で、教育の問題ですが、部落解放運動とのかわりの中での県教育委員会に対して、部落人口増加の折衝を闘争という形で行なつてきました。しかし、そこには、必ずしも上記の問題のすべての子どもの教育権を保障することを主張してはいないのが現実です。だから、もうちょっと大きめで、県教育委員会を考えて貰うと、考え方すべての子どもに対して責任を取って、しっかりと方向をもつて県教育委員会、文部省へぶつかっていかなければ、と思います。目的は達せられたないのはどうかと思いまして、これまでやつてきたといふと市民があまく泣き声になります。

「いや、それが先づかんであれば、おまえの仕事は、民謡調などうへんでもないが、たしかに、住民調査といふものの本筋は、必要性はねがつたまつ。」
「しかし、「科」一人のひがふうとしたい
やがて、さういひでいいほんばらへん」キ
トとすむるといひがきだらう」と、自分自身
じこをかせぐ、向むかひよつて、うなづが
私たもの中のままで。

責務であると同時に國民的課題

解放運動の側

うつ場で困らぬなら、まへん。やがて立つと
「果報は、夢で待て」といひ聲がありま
すが、百年待つても一百年待つても、棚か
らお夕餅は落ちきません。だから、棚の
上のお夕餅を食べようと思えば、自らが立

山口 日本の憲法は、人権憲法といわれ
るほど、基本的人権として、多くの権利と
自由が規定されています。

はなづこじいんじいしだ。ほいきのわ
つたよふた處が一歩。
口 遊戯ほんじうの無心のびす。逆
差別は元走り差別なのです。私たちは、逆
差別の現象へと発展をしてしまいます。なぜ、
部落へ予算を使うのがいいか悪く、差
別の爪跡を察知しないだけではないとい
からです。手当してやがなれねたのま
せん。それが、いかんといふ考え方だ
差別を無くする方向ではないよ。むしろ差
別の爪跡を残すことになります。

ます。だから少ない経費で、大きな事業ができるように、同和政策以外の施策についても、県ならに実施やすいように補助基準を設けさせると、こう方向へ、すべての市民が、また、行政が目を向ける必要があります。それをやるなければ、常に部落集団化され、悲しいことや見え隠れされ、踏みつけられるわけです。良くないねと頭にならで足を引つはられるといふ状態が続いているのではないかと考えます。見並今お話を聞いていて、差別的

落解放運動が作り出したのです。したがつて措置法に基づいて部落外の事業に対する

